

名 称		平成 29 年度 第1回 ほどがや市民活動センター評議会 議事録		
日 時		平成 29 年 10 月 5 日 (木) 10:00~12:00		
場 所		ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース		
出席者	評議会委員	浅井 経子 委員	(八洲学園大学 生涯学習学部 教授)	
		小倉 敬子 委員	((公財)かわさき市民活動センター 理事長)	
		近藤 博昭 委員	(横浜商工会議所西部支部 支部委員)	
		竹迫 和代 委員	(参画はぐくみ工房 代表兼ファシリテーター)	
		畑尻 明 委員	(保土ヶ谷区連合町内会長連絡会 会長)	
	保土ヶ谷区役所	地域振興課	地域振興課長	大山 敏彦
		"	生涯学習支援係	西村 佳那子
		"	生涯学習支援係	西戸 達哉
		"	生涯学習支援係	平山 啓子
	協働運営会議	代表	小林 由美子	
	管理運営業務 受託者 特定非営利活動法人 横浜市民アクト	理事長	福島 伸枝	
		ほどがや市民活動センター センター長	吉弘 初枝	
		同 職員	伊勢 俊枝	
		同 職員	三浦 康子	
		同 職員	金子 志穂	

議 題	1 平成 29 年度 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について 2 ほどがや市民活動センター 協働運営会議から 3 評価シート記入 4 その他 意見交換
資 料	1 平成 29 年度 ほどがや市民活動センター 評議会参加者名簿 2 平成 29 年度 ほどがや市民活動センター 事業計画・施設利用状況・事業チラシ 3 ほどがや市民活動センター 評議会会則 4 ほどがや市民活動センター 協働運営会議会則・組織図

* 大山地域振興課長の開会の挨拶に続き、評議会委員 5 名参加により会議成立を報告。

* 平成 29 年度評議会議事録をほどがや市民活動センター ホームページに掲載することについて出席委員 全員の了承を得る。

* 平成 28 年度第 1 回評議会時選出に基づき、議長は小倉委員、副議長は浅井委員が務める。

議題 1 平成 29 年度 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について

○保土ヶ谷区役所との共催事業についてはアワーズ職員と区役所担当職員が一緒に説明を行う。
資料に基づき事業ならびに利用・相談件数について説明及び報告。

【委員からの質問および意見とアワーズからの回答】

『場の提供』について

(質問) 平日夕方から親子グループの利用があると聞いて驚いている。具体的にどのような活動をしているのか。

(回答) 近隣のいくつかの保育園に通っている保護者を中心に、親どうしのつながり、仲間づくりをしているサークル。
子どもたちはその時間英会話の勉強などを行っている。

『事業目標1 情報の受発信 相談コーディネートの実践』について

(意見) 相談の傾向に変化がみられるとのことだが、数年間にわたり傾向変化を捉えることで、地域課題も見えてくるのではないかと。

(質問) 行政からの相談が増えたとのことだが、どのような部署から相談があるのか。

(回答) 福祉保健課事業企画担当や高齢者支援担当、地域力推進担当などから事業の方向性や企画内容などについての相談が多い。

アワーズは地域支援についてノウハウを持った NPO 法人と、区役所が協働運営していることや、アワーズの役割を区役所内で改めて共有していることもあり、相談につながっている。

(質問) 自治会、町内会等の事業について相談はあるか。

(回答) 町内会で新しく班長になった方から、ボランティアしあえる関係、仕組みをつくるにはどうすればいいか、といった相談や、商店街の街づくりの取り組みとして、子ども向けの事業ができないか、など相談が寄せられている。

(意見) 相談事例を情報紙に掲載してはどうか。いろんな相談を受け付け、対応できるという周知になる。

(質問) ホームページの管理について、バリアフリー対応を進めているか。

(回答) 開設当初から対応。多様なニーズに対応できるよう、今後も運営していく。

(意見) ルビを打った形で読めるページを別に作るとよいのでは。外国籍の利用者にはわかりやすい。

(質問) フェイスブックは活用しているか。イベントを開催する時のみ告知用に活用できるのでは。

(回答) ほどがやサンプラザプロジェクトなど、イベント時期だけ活用するか現在検討中。

『事業目標2 ネットワーク化を進める』について

(質問) 「地域まちづくりプロジェクト」と「はぐくみプロジェクト」はどう区別化されているのか。

(回答) 「地域まちづくりプロジェクト ほどがや楽考」(以下ほどがや楽考)は地域ごとの課題解決やつながりを目指す事業。「はぐくみプロジェクト」は区内全域を対象とした事業となっている。

(意見) 「はぐくみプロジェクト」、「ほどがや楽考」、「学校地域コーディネーター」が交流する機会があるとよいのでは。

(回答) 「ほどがや楽考」は横浜市 18 区各区で取り組んでいる「地域づくり大学校」事業の一環。保土ヶ谷区は本年度から実施。行政職員はエリア担当の課長職が、自治会・市民活動団体・NPO法人・企業が地域課題の解決に向け、共に学び、意見交換しながら取り組むことに特色がある。

(意見) エリア別で考えて取り組むなら、今回はここ、など、ターゲットを明確にし、ネットワーク構築ができることをアピールしてはどうか。行政職員と共に取り組むこともポイントに、プログラム表現の差別化やより内容が伝わりやすい工夫が必要では。

(質問) 学校地域コーディネーター・フォーラムの内容はどういったものか。コーディネーターの役割は何か。

(回答) 役割は学校と地域のパイプ役となり、双方のマッチングを担う。学校のニーズとボランティアの想いをつなげている。例えば学校の花壇の手入れや、登下校の見守りなどのボランティア活動もそのひとつ。学校長の推薦を受けて、現在は PTA 役員経験者の若い世代の女性が増えている。所管は教育委員会。学校によってはコーディネーターが1人のケースもあり、コーディネーターどうしの情報交換などを目的とした連絡会が自主的に立ち上がっている。

今年度のフォーラムは、アワーズを会場に、20 程度の企業や NPO が参加し、コーディネーター、学校関係者、企業がつながって「子どものために大人ができること」を考えあう場だった。保土ヶ谷区を手始めに方面別のフォーラム開催に向けて検討中。

(質問) アワーズとして受託した事業なのか。

(回答) 自発的に取り組んでいる事業。コーディネーターが学校や地域で活動している中で、不安や悩みを抱える状況をフォローできればと考え、自主事業として取り組んでいる。

(意見) コーディネーターが地域では受け入れられない状況も考えられる。学校とコーディネーターの関係だけではなく、地域包括センターや区役所、社会福祉協議会が中心になる必要があるのではないか。

「地域まちづくりプロジェクト ほ도가や楽考」で取り上げることもできるのではないか。区役所が中心となり、庁内で横断的に取り組む必要があるのでは。

(回答) 学校地域コーディネーターについて、地域での受け入れ態勢等、重要な問題提起をいただいた。

『事業目標3 区民利用施設との連携による活動支援ならびに施設どうしの連携を進める』について

(意見) 区内施設間連携促進事業「地域デザインセミナー」は、指定管理運営の施設が多い状況もあり、区役所から管理職だけでなく、現場対応の職員が参加できるように参加を呼び掛けることが重要。どういう人に参加してもらいたいのか、実務担当に届く仕掛けが必要。

(質問) 同じ参加者が全回(5回)出席するのか。

(回答) 現在参加者の多くは実務者担当。同じ人が参加するケースもあるが、施設側が内容によって参加者を検討しているケースもある。

『街の学習応援隊事業』について

(質問) 登録更新をしない応援隊もいるのか。

(回答) 応援隊登録は自発的なものであり、更新をしなかった応援隊もいる。すでに地域でつながりがあり、忙しくて現時点で他からの依頼は受けにくいなどの理由で更新は見合わせる、という連絡が複数あった。

(意見) 応援隊をはじめ、地域と関わるができる様々なルートがある。どういう道を選べるか、コーディネーターが必要。

(意見) 地域と関わり、自分が役に立てることがある、ということが初めての人でもわかるようなものがあるとよい。地域活性につながる。

(回答) 現在アワーズ案内リーフレットの内容を検討中、ご意見を生かしていきたい。

議題 2 ほどがや市民活動センター 協働運営会議から

(意見)リーフレットはわかりやすく、すっきりしていてよい。掲載写真にもあるセンター横の看板を含め、「アワーズ」の表示が見づらい。もっと明るい表示ができればよい。また入り口が横向きなので開館しているのかもわかりづらい。入りやすさを大切にしてもらいたい。

議題(3)評価シート記入

議題(4)その他 意見交換

議題(4)その他 意見・質問

- ・活動するうえで、情報共有、連携は大変重要。まなぶん祭りに当初から関わり、年々来場者が増え、関わる実行委員も少しずつ変わりながら取り組んでいる。継続は力であり、人が変わっていく楽しさを感じている。
- ・NPO 法人は専門的分野を持ち、「地域」を強調している場面も多いが、実際はどうなのか。町内会などの地域活動団体とNPO 団体が顔の見える関係を作る場面があるとよい。